

花王株式会社

「正道を歩みつつ、よきモノづくりに取り組む」伝統花王ウェイ

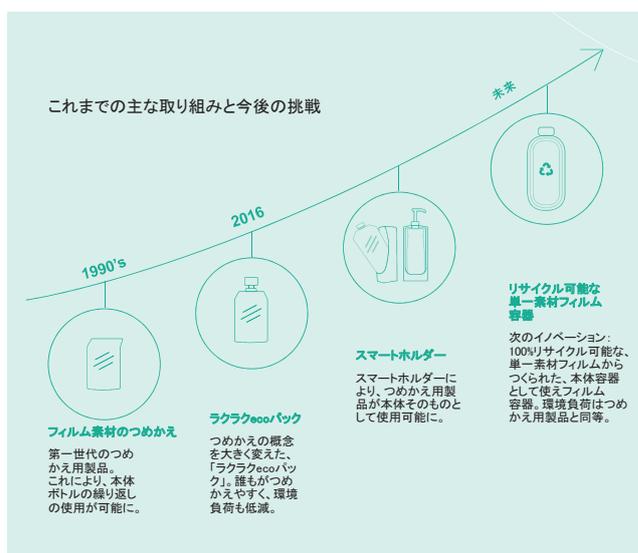
花王の持続可能性への取組みの歴史は長く、創業以来130年にわたって社会に貢献することを使命として活動してきた。その企業理念は、正道を歩みつつ、よきモノづくりを通して、世界の人々の喜びと満足のある豊かな生活文化を実現するという「花王ウェイ」に示されている。

2019年にはこの花王ウェイに基づいて2030年までのESG戦略「Kirei Lifestyle Plan」が発表された。この戦略では、①人、②社会、③地球に関する3つの柱の下に、それぞれの柱につき4つのアクションを設定した。例えば、③の「よりすこやかな地球のために」という柱の下には、脱炭素やごみゼロ、大気および水質汚染防止などが掲げられている。これら12のアクションに、基盤となる7つのアクション（徹底した透明性、人権の尊重、受容性と多様性のある職場など）を加えて、計19の重点取組みテーマが設定されている。

重点取組みテーマは、まずISO26000やGRI Standard、SDGsなどで示されている世界のトレンドを考慮しつつ社会的 이슈を78個に特定し、社外、海外まで、顧客のみならず、投資家や環境の専門家、その他の有識者、サプライヤーなどから評価してもらった。その結果をもとに、ステークホルダーにとっての重要度、花王にとっての重要度の二つの軸でマッピングを行った。その後、ESG推進会議、ESG委員会で審議を続け決定し、19のアクションに絞り込んだ。

ビジョンやESGの戦略を策定するだけでなく、その内容を確実に実践していく花王の姿勢は、新たに導入された推進体制からも見て取れる。2018年にはESG活動を本格化するため、サステナビリティ推進部を刷新し、ESG部門とした。取締役会の下にはESG戦略に関する活動の方向性を議論、決定する機関であるESG委員会を設置し、その直下に各部門のESG戦略を遂行する責任者で構成されるESG推進会議を新設した。これにより、ESGが完全に経営の中核に置かれることとなった。社外の有識者からの意見を求めることはもちろん、ESG部門のトップに、グローバルでESG関連業務の豊富な経験を有する外国人社員を配置したことも特徴的である。ESGを経営の中核に置く、このような推進体制は外部からも高く評価されている。

具体的な取組みとして、現在、花王が特に力を入れているのは、海洋プラスチック問題である。世界的に関心が高まっているこの問題は、投資家や他のステークホルダーとの対話でも高頻度で話題に上がるという。2019年に、花王は、プラスチック包装容器に対する考え方を「私たちのプラスチック包装容器宣言」で示した。この宣言にある「プラスチックは自然界に排出されるべきではない」という考えに基づき、4R (Reduce, Replace, Reuse, Recycle) の視点で取組みを進め、容器に使われるプラスチックの量を減らす試みが続けられている。従来のかめかえ容器から、「ラクラクecoパック」、詰替えいらずの新発想の「スマートホルダー」等が開発され、プラスチックの使用量は減少している。現在は、100%リサイクル可能なフィルム容器の開発が進んでいる。包装容器におけるプラスチック削減の取組みに見られるように、花王のサステナビリティへの貢献は今後も進んでいく。



花王の包装容器開発の取組み